

## エクセルシア(3ポイント活字)にかかわって Concerning the word "Excelsior" for 3-point type

寺内孝  
Takashi TERAUCHI

印刷用語でいう「ポイント」とは、「活字の本体(胴体)を測る単位(A unit of measurement for type bodies)」(OED)、「印刷に使用される活字の大きさを測るために使われる単位(a unit that is used to measure the size of type used in printing)」(Webster 3)のことである。<sup>1</sup>

今日アメリカで使われているポイント・システムはフランス式のものを一部変更したもので、1883年(OED s.v. point)か1886年(Webster 2 s.v. point system)に採用され、1ポイントは約1/72インチ(0.0138インチ=0.3514ミリメートル)で表される。

伝統的な活字は3ポイントから始まり、以後半ポイントずつ上がる。そしてそれぞれの活字には名称があり、3ポイントは excelsior と呼ばれ、以後順に brilliant (3.5), gem (4), diamond (4.5), pearl (5), agate (ruby)(5.5), ... の様である。ウェブスター第2版で "type" を引くと、活字見本が図示されており、「ダイヤモンド(Diamond)(4.5ポイント)」から「グレート・プライマー(Great Primer)(18ポイント)」までの13種類が分かるようになっている。今日ではこのような活字の名称は使用されることなく、直接「ポイント」が使われる。

では、「ポイント・サイズ(point size = body size)」とはどの部分を言うのかということだが、それをいう前にアルファベットの活字(type)の高さ(たけ)にかかわる三つの構成部分、アセンダー(ascender)、ディセンダー(descender)、エックス・ハイト(x-height)に通じる必要がある。エックス・ハイトとは小文字の x の高さをいい、アセンダーとは b, d, f, h など小文字の x の高さより上に突き出ている部分、ディセンダーとは g, j, p, q などベースライン(abcdef, hi, klmn ... の各文字の下端に引いたときにできるライン)より下に突き出ている部分をいう。次に「ポイント・サイズ」だが、これは「アセンダーの上からディセンダーの下までの長さ、組版の際に行と行が重ならないよう文字の上下にわずかにとった余白とを加えた寸法」のことをいう(クレイグ 21)。ここでいう「文字の上下にわずかにとった余白」とは金属活字の図解(下記注で示された諸辞典の "type" 参照)を見ればわかるように、ボディ上部の空所、「ショルダー」と呼ばれる部分によって作りだされる「余白」のことである。

この「余白」は「タイプフェイス(typeface 活字面)」によって異なるから、「印刷物の紙面で文字の寸法をはかっても、正確なポイントサイズはわからない」。ゆえに「書体見本帳に載っている文字のサンプルと比較してみるのが、いちばん確実な方法」である(クレイグ 21)。もっとも、文字の上下の「余白」については取らないことがあり、この場合、「文字サイズ」は「ベースラインからベースラインまでの寸法」である(クレイグ 21)。

上で言う、文字の上下の「余白」は、「行と行の間にあるスペース」とは別物である。後者は「ライン・スペーシング(line spacing)」(「レディング(leading)」と同義)と呼ばれるもので、仮に「10ポイントの文字を使って行間のアキを1ポイントにしたら、それは“テン・オン・イレブン”(10/11)という組み方になる」(クレイグ 22)。ここでいう10は文字サイズ、11は文字サイズに行間を加えた数字のことである。行間をとらずに文字を組むことを「ソリッド(solid)」といい、仮に「10ポイントの文字をソリッドで組むと、ベースラインからベースラインまでの距離はちょうど10ポイント」(クレイグ 22)になる。

ちなみに、ウェブスター第3版の活字は5.5ポイント(agate or ruby)、ハイド・クラーク(Hyde Clarke)の A New and Comprehensive Dictionary of the English Language; As Spoken and Written の活字は6ポイント(nonpareil)であることが判明した。

注

本稿はディケンズ・フェロウシップ日本支部 2002 年度秋期大会（2002 年 10 月 5 日、於甲南大学）において口頭発表した原稿に加筆・修正したものです。

- 1 "type" "type body" "type face" などについては下記諸辞典の "type" など参照。  
竹林滋・他編『研究社新英和大辞典』研究社、1903。  
『小学館ランダムハウス英和大辞典』小学館、1974。  
Gove, Philip Babcock, et al. *Webster's Third New International Dictionary of the English Language Unabridged*. Springfield: G. & C. Merriam Company, 1966.  
Coulson, L. et. al. ed. *The Oxford Illustrated Dictionary*. Oxford: Clarendon Press, 1976.  
*The Oxford-Duden Pictorial English Dictionary*. Tokyo: Japan Publication Trading Co., Ltd. pp.175-176.

#### 参考文献

クレイグ、ジェイムズ著、組版工学研究会監訳『欧文組版入門』朗文堂、1989。